大阪府都市基盤施設維持管理技術審議会

資料１

平成26年度第２回幹事会　議事録(案)

日　時：平成27年１月27日(火)　15:00～17:30

場　所：大阪府　西大阪治水事務所　１階会議室

出席者：井上晋委員、鎌田敏郎委員、川合忠雄委員、奈良敬会長代理、古田均会長

* 平成26年度第１回幹事会の議事録確認が行われた。
* 第１編基本方針について、鎌田全体検討部会長より報告が行われた。
* 中間とりまとめからの変更点について、事務局より報告が行われた後、審議が行われた。
	+ 審議会等で集約したデータは、どのような形で残されるのか。

　　　 実施したアンケートなどで良いデータを取られたが、継続して行うことで、変化や課題などが明確になり、役に立つと考えている。

* + 人材や財政のことを考えると難しいが、効率的・効果的で無駄がないとなるが、やり方や予測など、不明な点も多いため、柔軟に対応・運用するためには、無駄を拒絶することは避けるべきである。
	+ 持続可能な維持管理の仕組みづくりでは、大学との連携を挙げているが、府としては、小・中・高という視点も必要かと感じた。
* 道路・橋梁等部会の検討概要について、井上部会長より報告が行われた後、審議が行われた。
	+ 不可視部分の点検にレーダーを導入するなどの記載があるが、新技術や新しいことを実践するということをもう少し記述してはどうか。
	+ 健全度と予算を関連付ける必要がある。投資した額で何％健全度が上がったかということが言えれば、大きな成果になる。
	+ 設備の劣化に関しては、時間的変化を考慮していないため、横並びで評価することが難しい。
* 河川・港湾・公園部会の検討概要について、部会事務局よりそれぞれ報告が行われた後、審議が行われた。
	+ 概要の資料について、項目に漏れが見受けられるが、それは現状で十分という意味なのか。若しくは不可能という意味なのか。
	+ 全体検討部会で議論をされ、出されている項目についても可能であれば課題を挙げて記述しておく方がよい。
* 下水等設備部会の検討概要について、川合部会長より報告が行われた後、審議が行われた。
	+ 設備の維持管理は府がやっているのか。例えば民間業者と保守契約などは締結されているような例はあるのか。
	+ 設備は24時間機能することが必須なので、補修や点検に加え故障の対応も含んだ契約はされていないのか。
* 鎌田全体検討部会長より、「おわりに」について報告が行われた後、審議が行われた。
	+ 第２パラグラフで、「計画策定は長寿命化への第一歩」という表現があるが、「長期安全性の確保」などの方が包括的で適切ではないか。
	+ 第３パラグラフでは、「最適なあり方」という表現があるが、最適という修飾語に違和感がある。「最適な手法」という言葉の方が適切ではないか。
	+ 都市基盤施設は、身近な行政サービスではなく、身近な行政サービスの土台や器ではないか。
	+ 最適という言葉では、解が一つと捉えられる可能性があるため、少し違う表現を検討いただきたい。最適ではなく向上・改善させていくという意味が必要である。
	+ 関係諸機関や市町村に対して、府がリーダシップを取るという表現も加えていただきたい。
	+ 最良の維持管理という表現は「空気のような存在」など、言い方を変えてはどうか。都市基盤施設は、存在そのものが意識されにくい。
	+ 否定的な表現は避けるべきである。空気のようにあって当然の安全なもの。

～全体を通しての意見～

* + 長寿命化計画の策定にあたり、行政の方々が必死で考え、悩み、検討する過程で意識が高まり、今が最も良い状態ではないか。そのポテンシャルをうまく引き継いでいくことが重要である。
	+ 維持管理と同じで、手を入れたら終了ではない。職員も含めこれからが本当の維持管理である。
	+ 計画を作るだけではなく、府民の方の距離が少しでも短くなるように配慮していただきたい。一生懸命実施していても、伝わらなければもったいない。
	+ 志を若い人に引き継ぐことが最も難しい。何のためにやるのか。対象が変わっても、業務が変わっても、志は変わってはいけない。その志が若い人に引き継がれ、新たな時代でまた適切なことを考えていただきたい。
	+ 健全度や損傷度は、一般の方には非常にわかりにくい。インフラの維持管理について、たとえばインフラを患者と考えて説明するなど、理解を促すためには工夫が必要である。

　　　　20代の健康80代の健康は随分異なる。運動能力一つでも大きく異なる。

* 今後のスケジュールについて、事務局より報告が行われた。
* ２月13日の審議会に向けた修正は、古田会長預かりとなった。

―了―